

ハルマゲドンは地平線上に見えているのか？

【訳者注】この論文は、「西洋は相手にされなくなった：世界は笑っている」(4/6)「アメリカのシリア攻撃の多層的分析」(4/13)の2つの論考とよく照らし合って、セットのように読めることに読者は気づかれるだろう。この論文も、アメリカとその従僕連合(日本を含め)を“世界が笑っている”という内容であり、その笑われている内容の一つには、アメリカの武力の傘過信がある。現実の力の過信だけではない。武力はその数的大きさだけで判断できるものでなく、それを使う者の士気や、その背後の世論に左右されるだろう。アメリカやその従僕連合が、なんと愚か者よと笑われるようになれば、士気も背後の力も当てにできなくなる。そこが我々の狙いどころである。

わが国のメディアの方々に申し上げたいことは、アメリカが本当に道徳的にも優れていて、世界の警察たるにふさわしいなどと(元NATO長官ラスマッセンのようなことを)言わないかぎり、メディアは、戦争防止の最大の力を握っているということである。“アメリカよ戦争をやめよ”と言うことが、今までの行きがかり上できないのなら、せめて兵士の戦闘忌避の態度を取るべきである。どうかこれを読んで、戦争協力だけはやめてほしい。

Paul Craig Roberts

April 13, 2017, Information Clearing House



西洋世界の、のんきぶりは異常というべきである。CNN、MSNBC、NPR、ニューヨーク・タイムズ、それにワシントン・ポストなどによって洗脳されるままになっているのは、アメリカ人だけではない。メディアのふりをする戦争プロパガンダ機械に依存している、ヨーロッパ、カナダ、オーストラリア、それに日本の同類たちも同じである。

<http://www.bbc.com/news/world-us-canada-39573526>

西側の“リーダー”たち、すなわち、強力な自己利益グループや深層国家に引っ張られる紐の先の傀儡たちもまた、のんきなものである。トランプと、アメリカ帝国の彼の仲間たちは、自分たちがロシアと中国に向かって戦争を挑発していることを知らないとしたら、完全な異常者に違いない。

新しいホワイトハウスの馬鹿が、古い馬鹿と入れ替わった。新しい馬鹿が国務長官をロシアに送った。何のために？ 最後通牒を突きつけるため？ これ以上の虚偽の告発をするため？ それとも、さんざんのウソに謝罪するため？

国務長官ティラーソンの厚かましさを考えてみるがよい。彼は、モスクワ訪問に先立つ一週間、信じられない数々のウソや、シリアのアサドが、ロシアの許しを得て化学兵器を使ったという虚報を支持していた。彼によれば、その事実によって、アメリカが宣戦を布告していない国を軍事攻撃するワシントンの、誰の目にも明らかな戦争犯罪が、許されるのだという。就任後 100 日も経たないうちに、トランプはもう、彼の戦争屋仲間と共に、戦争犯罪人になっている。

全世界がそれを知っているが、誰もそれを言う者がいない。それどころか、ウソと脅しで重武装したティラーソンは、自信たっぷりにモスクワを訪ね、ロシア政府に向かって、君たちはアメリカという単一強国にアサドを引き渡さねばならない、と言った。

ティラーソンの使命は、ワシントンが、完全に、全面的に、非現実の浮いた世界に生きていることを、明証している。ティラーソンの傲慢をちょっと想像してみるとよい。もしあなたが、これまでさんざん悪口を言い、脅迫してきた、強くて一目置かれる人々の家に、招かれて会食するとしたら、あなたは心安らかにいられるか？ ティラーソンは、ロシアが今、アメリカに援助された ISIS を、シリアからほとんど追い出したので、ロシアはシリアを、ワシントンに引き渡すだろうと思っているのだろうか？

彼はラヴロフに対し、自分がロシアについて話した嫌らしいウソは、すべて彼の本心でなく、シオニストのネオコンたちが、そう言えと命じたのだ、などと言うつもりだろうか？ 実は彼はアングロ・シオニスト帝国の道具であって、彼に責任はないなどと？

ティラーソンは、ホワイトハウスの報道官ショーン・スパイサーが、ロシアの同盟者アサドは、ヒトラーより邪悪だと言ったことについて、謝罪する気があるのだろうか？

<http://www.informationclearinghouse.info/46838.htm>

ひょっとしたら、ティラーソンは亡命を求めて、勝った側につこうとしているのか。

ロシアをよく知っている、数少なくなったアメリカ人の一人、スティーヴン・コーエンは、CNN 売春新聞と、彼らが雇ってロシアの悪宣伝をさせようとした“専門家”の一人、戦争屋の Leighton 大佐に対して、「ロシアは熱い戦争を準備している」と語った。どうやらこ

の発言は、CNN と大佐の頭の上を、通り抜けていったようだ。彼らは誰に雇われているのか？ <http://www.informationclearinghouse.info/46838.htm>

西側のウソつきと違って、真実を話すロシアのリーダーたちは、ロシアは決して再び、自分の国土で戦争をするつもりはないと、はっきり言っている。ロシア政府はこれ以上ない明瞭さで言った——戦争を挑発するなせよ、我々は、君たちを君たち自身の領土上で撃滅するだろう。

ワシントンの大統領と政府、ヨーロッパの諸政府、特にロンドンの薄ノロたち、またカナダやオーストラリアの政府を観察していると、“西側のリーダーシップ” 全体の愚かさに呆れ果てるよりほかない。彼らは世界の終わりを求めているのだ。

そして売春メディアは、生命の終わりに向かって一生懸命働いている。膨大な数の西側の人々が、自分たちの没落を覚悟させられているのだが、そののんきぶりによって、そのことに気づかないでいる。

ワシントンはあまりにも傲慢で、自己中心の思い上がりの中に埋没しているので、ワシントンが理解できないことがある。それは、ロシアとロシアの意図や行いについての、彼らの長年におよぶ明白なウソ宣伝の目的は、ワシントンが、アメリカ人民にも、また西洋、東ヨーロッパ、カナダ、オーストラリア、それに**日本**などの、ワシントンの囚人たちにも、アメリカの対ロシア核先制攻撃の準備をさせることだということが、ロシアには見えているということである。公表されたアメリカの対中国戦争計画も、中国にはそう見えるだろう。

戦争のためでないとしたら、アメリカの戦争教義の変更は何のためだろうか？ ジョージ・W・ブッシュは、核兵器の役目を、報復から最初の攻撃に移すことによって、核兵器の安定化の役割を棄ててしまった。その後彼は、ニクソンの締結した弾道弾迎撃ミサイル制限条約から脱退した。現在、我々は、アメリカのミサイル基地をロシア国境に並べている。我々はロシアに対しては、このミサイルは、イランの対ヨーロッパ核 ICMB 攻撃を防ぐためだと、ウソをついている。このウソは、イランには核も ICBM もないという、よく知られた反論できない事実にもかかわらず、ヨーロッパの傀儡たちが言い出し受け入れられているものだ。しかしロシア政府はそれを受け入れていない。彼らはそれが、もう一つのワシントンのウソだと知っている。

ロシアがこうした露骨で見え透いたウソを聞くと、彼らは、ワシントンがロシアに対する先制核攻撃を意図していることがわかっている。

中国も同じ結論に達している。

そこで状況はこうなっている。核をもつ 2 つの国が、西洋を支配する狂気の愚か者が今にも、自分たちを核兵器で攻撃しようとしていると、予想している。ではロシアと中国はどうしているか？ 彼らは慈悲を乞うているのか？

そうではない。彼らは悪なる西洋、ウソつきと戦争犯罪人の集団、世界が歴史上経験したことのない、そのような者どもを撃滅する準備をしている。

慈悲を乞わなければならないのは、アメリカ、この“単一の強国”と皮肉られ、16 年たっても、数千のアフガニスタンの軽武装をしたタリバンを、いまだに負かすことができないでいるアメリカである。

アメリカ政府や売春メディア、また NATO やワシントンの従僕国の間で交わされる、向こう見ずで無責任な戦争の話は、直ちにやめなければならない。すべての生命がかかっている。

プーチンは、ワシントンのウソや挑発に驚くべき忍耐を示してきた。しかし彼は、ワシントンを信ずることによって、ロシアを危険にさらすことはできない。誰もワシントンを信ずることはできない——アメリカ人民も、ロシア国民も、誰ひとりとして。

深層国家のプロパガンダ・ワゴンに飛び乗ることによって、リベラル/進歩/左派は、ハルマゲドンに向かう大行進に共謀している。——以上